

○參照第九

客年土木事業視察ノ爲メ瓜哇島ニ出張ノ序ヲ以テ蘭領東印度ニ於ケル震災畧誌別紙ノ通り取調ヘ及報告候也

明治三十一年一月

震災豫防調査會委員

内務技師 近藤虎五郎

震災豫防調査會會長理學博士菊池大麓殿

蘭領東印度震災畧誌

蘭領東印度トハ北緯六度乃至南緯十一度及ヒ東經九十五度乃至百四十一度間ニ介在スル諸島ノ總稱ニシテ數十ノ噴火山各所ニ散點シ瓜哇島ノミニモ高三千米以上ノモノ十ヶ所アリ從テ震災ノ頻繁ナルコト有數ノ邦土ナリト云フ
今蘭領印度政府便覽ニ依リ取調ブルニ既往ノ震災ハ大畧左ノ如シ尤記事簡短ニ過キ破裂及ビ津浪ノ景況並ニ被害ノ程度ヲ詳知シ能ハザルハ遺憾トスル所ナリ

西曆	年月日	摘要
一五八六年	?	東瓜哇リンキット山(一二四六米)大破裂 バナラルカン地方被害
一八一五年	?	スムバワ島タムボラ山大破裂
一八一八年	?	瓜哇島フレアンガ縣グントール山(一九八二米)破裂
一八二〇年	?	パンダ島アピ山大破裂
一八二二年	十月二日	瓜哇島フレアンガ縣ガリングン山(二二一九米)大破裂
一八二四年	?	パンダ島アピ山破裂
一八四八年	五月十六日	瓜哇島クヂリ縣クルイト山(一七三一米)破裂

一八五二	十一月二十六日 以降翌年一月迄	モラツカ地方大地震及津浪バンダ 島大被害
一八五五	七月	テルナテ島大地震
一八五六	三月	グルートサンギ島アウ山大破裂
一八五七	四月及五月	モラツカ地方地震
一八六一	二月十六日	スマトラ島西岸ニアス島バトウ島 地震及ヒ海嘯
一八六一	十二月	テルナテ島マキアン山大破裂
一八六二	七月十四日	テルナテ島破裂
一八六三	七月廿八日	中央瓜哇メラピ山(二八〇七米)破 裂
一八六四	一月	瓜哇島ケヂリ縣クルート山(一七 三一米)破裂
同 上	五月廿二日	新ギエイ島大地震及海嘯ドレイ及 マンチナマ地方被害
一八六五	七月	瓜哇島サマラング縣アンバラワ地 方大地震、總督被害地ヲ視察ス
一八六七	七月上旬	瓜哇島中部大地震
一八七一	三月 三日	サンギ島破裂及ヒ津浪
一八七二	四月十五日	中央瓜哇メラピ山(二八〇七米)破 裂
同 上	十月	同島サマラング縣アンバラワ地方 地震
一八七五	?	瓜哇島ケヂリ縣クルート山(一七 三一米)破裂シ大ニ泥ヲ流ス
一八七九	三月 ^{廿八、廿九} 三十日	瓜哇島アレアンガ縣チャンヂウル 地方大地震〔寫眞〕
一八八一	一月五日	チモル島クーパーング大地震
一八八二	七月	瓜哇島アレアンガ縣グントウル山 (一九八二米)破裂シ泥ヲ噴出ス
一八八三	五月二十日	クラカタウ島破裂
同 上	八月廿七日	同島再破裂サンギ島其他各所ニ噴 火アリ
一八八四	終 年	バンナム及ヒランボング地方ニテ 死者三萬四千人義恤金ノ集マルコ ト一百萬鎊
一八八五	四月 ^{十八、十九}	中央瓜哇メラピ山(二八〇七米)噴 火
一八八六		東瓜哇スマルイ山(瓜哇最高山ニシ テ、三六六六米)大 破裂、一珈琲園ノ主人及ヒ勞働者 死ス其他各所ニ噴火アリ
一八八八		各所ノ噴火山破裂ス
一八九〇	七月	中央瓜哇メラピ山(二八〇七米)噴 火
同 上	十二月十二日	テルナテ島マキアン山破裂 中央瓜哇特ニヂヤバラ縣地震

一八九二	五月十七日	スマトラ島特ニタバヌリ縣地震
同	上	グルートサンキ島アウ山大破裂死者多シ
一八九四	十月十八日	瓜哇島ブレアンガ縣ガルングング山(二二二九米)破裂シ大ニ灰ヲ降ラス被害少シ

本表ノ年次ハ各當該箇所ニ記入シテ別紙圖面ニ詳ナリ

本表ニ依レバ西曆一五八六年ヨリ一八一五年ニ至ル二百廿九年間及ビ一八二四年ヨリ一八四八年ニ至ル廿四年間ヲ除クノ外四年以内ニ少クモ一回ノ震災アリシ割合ナリ故ニ右二期間ハ震災絶無ナリシト云ハソヨリハ寧ロ記録不完全ナリシト見做ス方穩當ナラン

震災ノ季節ト認ムベキ月日ナキハ本表ノ明示スル所ナリ
 大震災ノ回期ハ既ニ記シタル如ク本表ノ記事簡畧ニ失シ之ヲ知ルニ由ナキモ一八七九年瓜哇島ブレアンガ縣チヤンヂウル地方ノ地震〔寫眞參看〕及ビ一八八三年クラカタウ島第二回ノ破裂ハ被害夥シキ最近ノ震災ナリシガ如シ爾來十數回ノ地震アリシモ被害少キガ爲メカ建築及ビ土木ノ工事ニシテ耐震的設計ニ係ルモノ一モナシ否技師ハ曰ク近年ノ經驗ニヨレバ其

必要ヲ認メズト

蘭領東印度ハ亦降雨量多キコト有名ナル地方ニシテ十年乃至十七年間ノ平均トシテ一ケ年四米以上ノ降雨アル測候所十一ケ所アリ從ツテ水災モ亦夥シトセス試ニ當世紀ノ洪水ヲ列記スレバ

- 一八二一、一八六〇、一八六一、一八六三、
- 一八七二、一八七五、一八八〇、一八八二、
- 一八八五、一八八六、一八九〇、一八九二、

ノ十二回ナレトモ是レ地震トハ何等ノ關係ヲ有セサルモノ、如シ何トナレバ兩災其場所ヲ異ニスルノミナラズ一八八八年ノ如キハ中央瓜哇ニ噴火アリシモ頗ル旱魃年ナリシナレバナリ
 噴火山ノ破裂盛ナルトキハ人畜ノ疫癘流行スルモノ、如シ一八八三、四、五、六ノ四ケ年ハ各所ノ噴火山破裂シタルニ同年間ハ虎列拉、天然痘、熱病、脚氣並ニ珈琲葉及ビ甘蔗ノ感染病最猖獗ヲ極メタリト云フ是レ固ヨリ一例ニ過ギザレトモ偶然ノ符合ニ非ラザルモノ、如シ

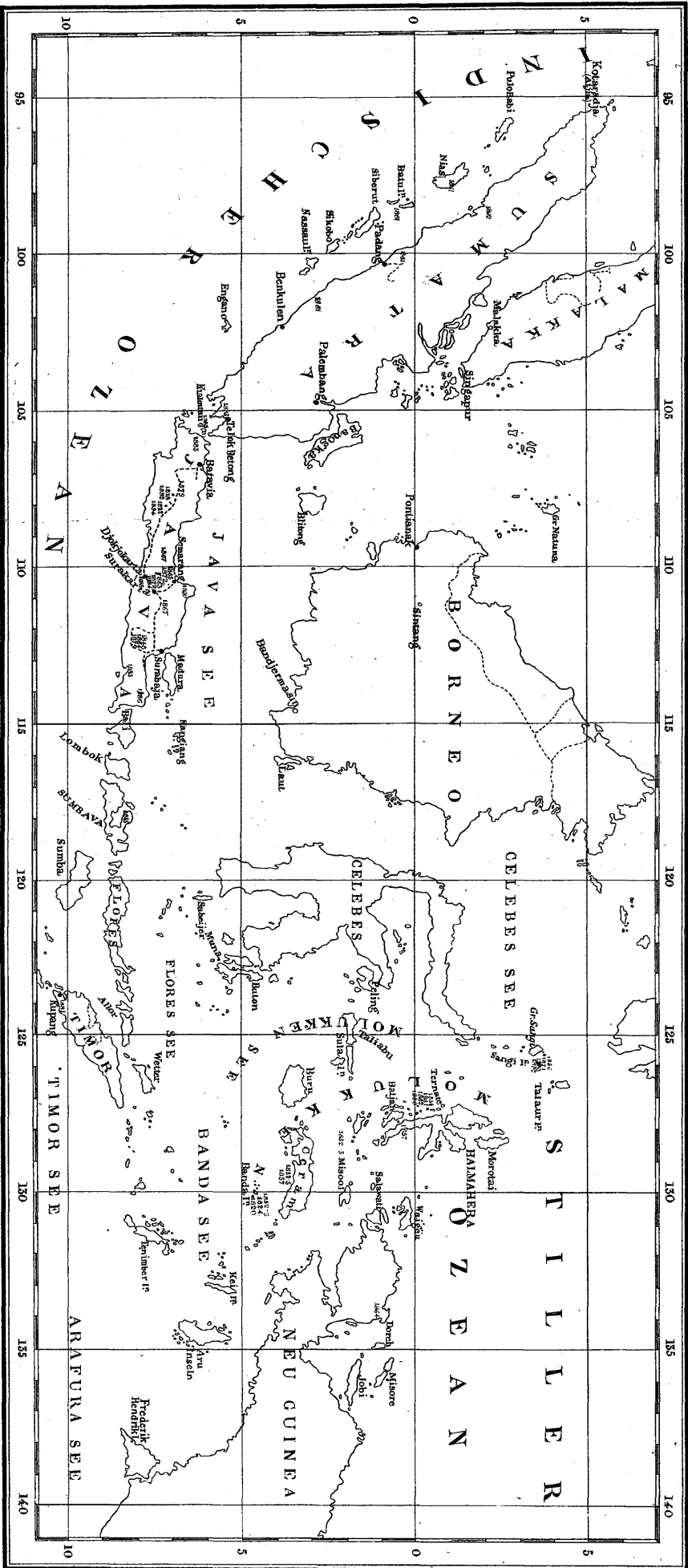
附記

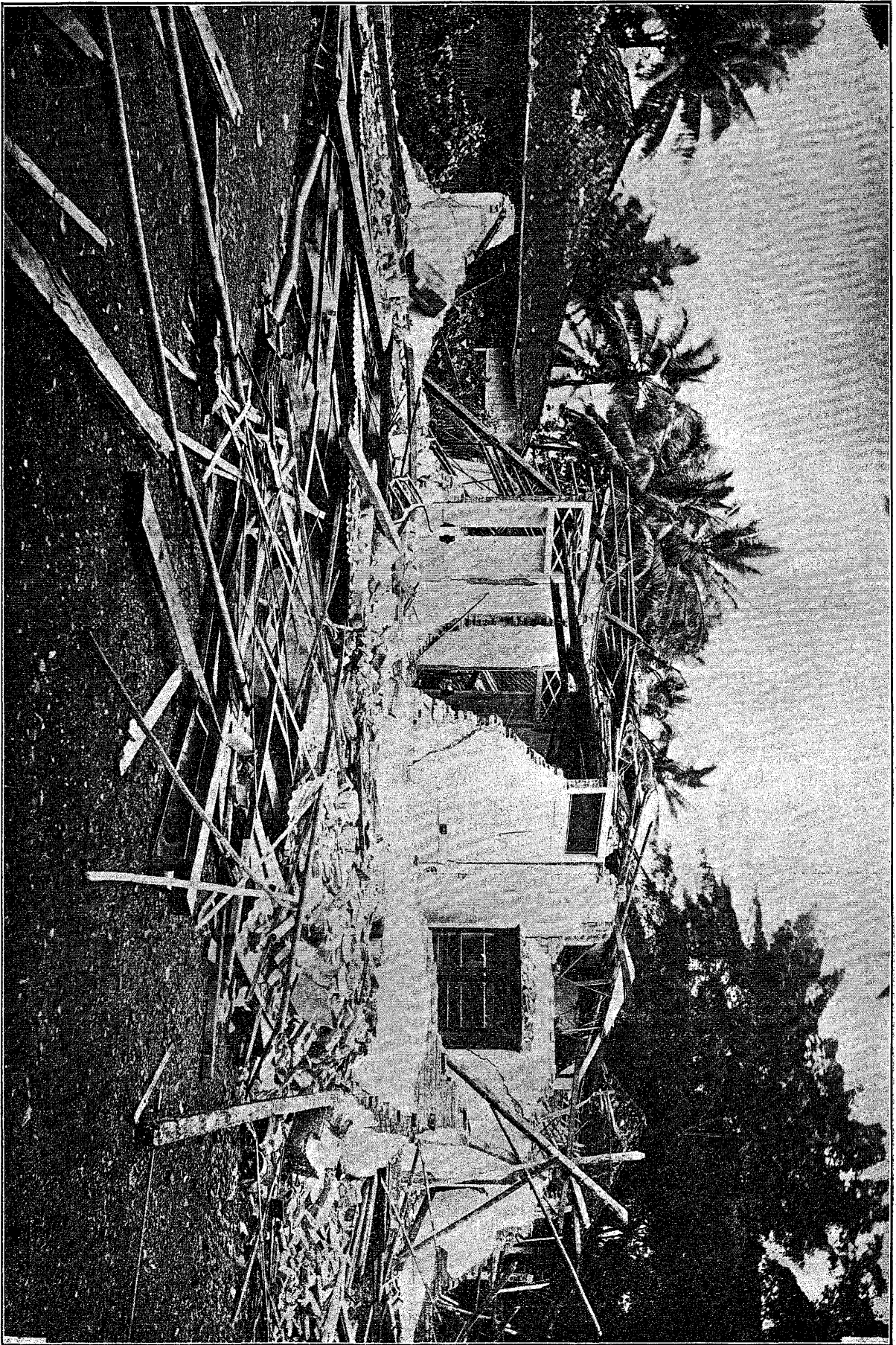
Nature 第四卷ヲ閱スルニ西曆一八七一年ノ春ハ南北及

ビ中央亞米利加共其西岸一体ニ數回ノ地震及ヒ噴火山ノ
破裂アリ水蒸氣ノ凝結シテ雨トナリシコト夥シク洪水モ
亦未曾有ニシテ其被害ハ秘露北部ニ殊ニ甚シカリシト云
フ之ニ依テ見レバ噴火山ノ破裂ト洪水トハ全ク無關係ト
モ云フベカラサル歟

次年災震度印東領蘭

一八八六年八月火噴山所各裂破ヲ以テ二部七八ノ





屋家害被震地大方地ルソゾンヤチ島哇瓜年九七八一